

## 東白塚調査(予備調査) 2014年6月14日

植物調査 大嶋章(富士山自然誌研究会植物部会) 大嶋よし子(同)

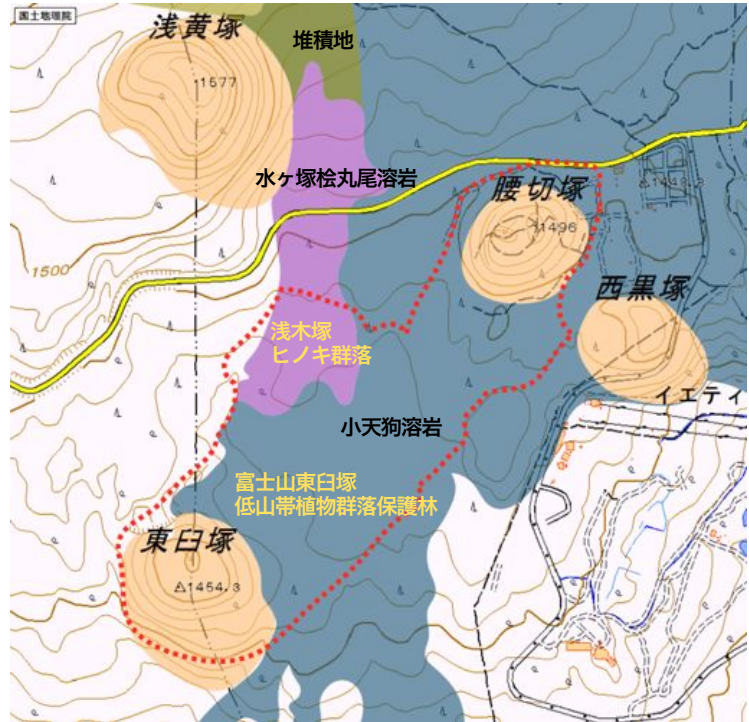
野鳥記録 菅常雄(日本野鳥の会東富士代表 NPO法人ホシガラスの会)

参加者 井上輝夫(裾野市富士山資料館館長) 横山澄夫 勝又幸宣(記録) 鷲尾賢司

水ヶ塚駐車場西側の腰切塚から東白塚一帯は富士山東白塚低山帯植物群落保護林とされ、また、水ヶ塚松丸尾溶岩流上の浅黄塚から東白塚にかけては浅木塚ヒノキ群落林木遺伝資源保存林として保護されている。また、富士山の中腹をほぼ一周する富士山緑の回廊の南端に位置しており、樹齢200年内外の天然ヒノキをはじめ、ウラジロモミ、トウヒ、コメツガ、ヒメコマツ(ゴヨウマツ)、イチイ(アララギ)など、富士山古来の森林帯が維持されている貴重な森である。

浅木塚ヒノキ群落は1950年代に伐採が計画されたが、地元の植物研究家渡辺健二氏が森林の貴重性を訴えて保護運動を行った結果、伐採は中止されて学術参考保護林に指定された。その後、水ヶ塚

を起点に東白塚を周回する散策コースが整備されて市民に親しまれてきたが、1996年(平成8年)の台風によって散策路が風倒木で塞がれたため通行不能となり、コースを整備してきた沼津営林署の廃止などもあり周遊コースは再開されることなく現在に至っている。



富士山スカイラインの水ヶ塚駐車場(海拔1400m)から調査に入る。近年、一帯の林床を覆っていたスズタケが枯死したため林内の見通しが良くなっている。腰切塚(1496m)の右側を進むとしばらくウラジロモミの人工林が続き、溶岩の起伏が激しくなったあたりで人工林は終わる。(写真)

林床には、マイヅルソウ、タニギキョウ、クワガタソウ、ツルシロカネソウ、イワセントウソウの小さな花々が多く見られ木本はミズナラ、マメザクラ、ナナカマド、オオイタヤメイゲツ、イタヤカエデやコミネカエデなどのカエデ類、ヤマボウシ、ブナなども散見され植生の豊かさがうかがわれる。



溶岩が露出し樹木がまばらな場所は林床に陽が入り草本ではエイザンスミレ、ツボスミ

レ、シロバナノヘビイチゴ、サワギク、シロヨメナ、フジテンニンソウ、ヤマシヤクヤクなどが見られ、木本はダケカンバ、カラマツ、ミズキ、トウゴクミツバツツジ、ホオノキなどがある。



歩道を進むと足元近くから大きな羽音とともにヤマドリが飛び立った。コルリの数が多い。

東白塚の東斜面から南斜面にかけては比較的若いブナとカエデ類の密度が濃く、頂上付近には大木も認められる。限られた範囲ながら富士山では稀少かつ貴重な場所である。



南南東側斜面のブナ林

東白塚を巻くように進むと突然明るく、やや窪んだ草原に出る。中心は雨が溜まるらしく樹木のない草原が広がっている。周囲はサンショウバラの群生地となり、ズミの花が雪をかぶったように美しい。草原にはキオン、ウマノアシガタ、イケマ、ヤマトリカブト、バイケイソウがある。おびただしい鹿の足跡と糞があり鹿の密度の濃さが想像できる。



草原と東白塚(中央) 2011年7月撮影 パノラマ(170度)



サンショウバラの群落



2004年8月の同所



東白塚を離れ、小天狗溶岩流(2,100年前 ※)の縁に沿って行くと点々とサンショウバラが見られ、富士山の中腹とは思えないような平坦な地形が続く。溶岩流上にはモミ、ツガ類の森が形成されている。ルートが水ヶ塚松丸尾溶岩流(1,300～1,050年前 ※)に入ると嘗ての作業道らしき道となり、木材を切り出していた頃の馬車のものと思われる細い轍も残っている。学術参考保護林の看板は朽ちて倒壊した。溶岩上には密度の濃い原生ヒノキの森が形成され、林木遺伝資源保存林とされている。静岡県側ではあまり見られない青木ヶ原樹海に近い森である。(写真下)

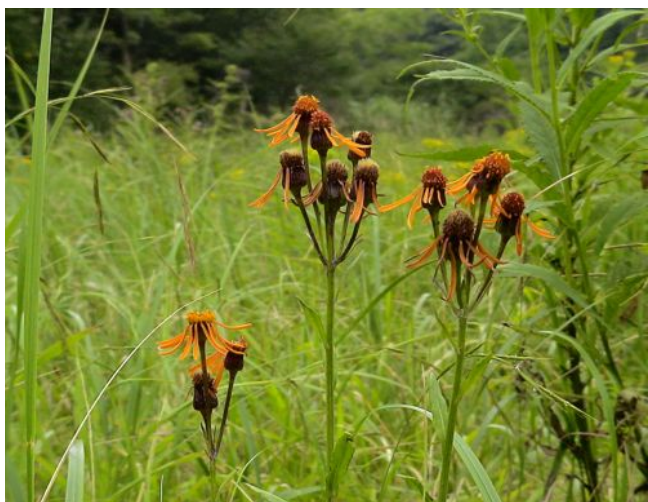


小天狗溶岩流のモミ、ツガ類



水ヶ塚松丸尾溶岩流のヒノキ

東白塚遊歩道はコース上に年代が異なる溶岩流や寄生火山が存在するため森林も変化に富み、生息する野鳥の種類も多い。ここには富士山の中腹には珍しい貴重な草原と植生があるが、コウリンカなどの希少種は鹿に食べられてしまいすでに見られなくなり、イワシモツケも消滅寸前となってしまった。この貴重な植生をニホンジカから保護する必要性を痛感した。



コウリンカ(2004年8月)



イワシモツケ(2010年7月)

旧ルート上沿いだけの短時間の調査であったが、変化に富んだ本コースの魅力をあらためて認識した。今後はルート上の数箇所を選んで詳細な植生調査とセンサーカメラによる動物調査を実施したい。

※ 富士火山(2007)荒牧重雄,藤井敏嗣,中田節也, 宮地直道 編集,山梨県環境科学研究所,p.79-95  
過去1万10年間の富士火山の噴火史と噴出率,噴火規模の推移 宮地直道

# 調査記録

## 東臼塚旧遊歩道環境予備調査 野鳥 菅 常雄

エナガ	2	ヤマガラ	1	ハシボソガラス	2
メボソムシクイ	1	カケス	7	キビタキ	6
アカゲラ	2	ホトトギス	18	ヤマドリ	1
オオルリ	11	ウグイス	23	シジュウカラ	3
コルリ	34	ヒヨドリ	7	コゲラ	2
ミソサザイ	6	ヒガラ	15	ビンズイ	2
アカハラ	12	コガラ	7	ソウシチョウ	2
イカル	1+	ハシブトガラス	2		

## 東臼塚旧遊歩道環境予備調査 植物 大嶋 章 大嶋よし子

〈木本〉 アシタカツツジ アオダモ アサノハカエデ アセビ アブラチャン イタヤカエデ イチイ(未確認) イラモミ イワガラミ イワシモツケ ウツギ ウラジロモミ ウリハダカエデ オオイタヤメイゲツ オオカメノキ オオツルウメモドキ オオフジイバラ オニシバリ カジカエデ カラマツ キハダ クサボケ クマイチゴ クマシデ コシアブラ ゴマギ コミネカエデ コメツガ サラサドウダン サルナシ サラサドウダン サワグルミ サワフタギ サンショウ サンショウバラ	シナノキ シモツケ スズタケ ズミ ダケカンバ タラノキ ツクバネウツギ ツタウルシ ツルアジサイ ツルシキミ トウゴクミツバツツジ ドウダンツツジ トウヒ ナツツバキ ナナカマド ニシキウギ ノリウツギ バイカウツギ バッコヤナギ バライチゴ ハリギリ ヒナウチワカエデ ヒメシャラ ヒコサンヒメシャラ ヒナウチワカエデ ヒノキ フジイバラ ブナ ホオノキ マタタビ マメグミ マメザクラ マユミ ミズキ ミズナラ ミツハウツギ	ミヤマイボタ ミヤマガマズミ ミヤマヤナギ メギ モミ モミジイチゴ ヤマブドウ ヤマボウシ リョウブ  〈草本〉 アカショウマ アマチャヅル イケマ イタドリ セントウソウ ゼンマイ タイアザミ タケシマラン タニギキョウ タニタデ チドメグサ ツボスミレ ツルキンバイ ツルシロカネソウ ツルニンジン トチバニンジン トリガタハンショウヅル バイケイソウ ハルガヤ フジテンニンソウ フタリシズカ ホウチャクソウ マイヅルソウ マムシグサ	マルバダケブキ ミヤマタニタデ ミヤマムグラ ムラサキサギゴケ ムラサキマムシグサ モミジガサ ヤマシャクヤク ヤマトリカブト ヤマムグラ ヨツバムグラ
---	--	---	---